

広報 2018

平成30年
No.894

12月号

ちの
Chino City

ちの市議会だより



特集

信州の特色ある縄文土器

長野県は優れた縄文土器が多数出土している地域であり、その中から、縄文時代中期の土器158点が、長野県教育委員会によって県宝に指定されました。そのうち47点は茅野市が所蔵している土器です。茅野市の特色ある縄文土器はどんな土器なのか、今回特集しました。

長野県宝指定！ 「信州の特色ある縄文土器」

茅

野市の尖石縄文考古館には、展示してある縄文土器の他にも、多くの優れた資料が収蔵されています。また、発掘調査により新しく収蔵されるものも多くあります。長野県の中でも、中南信地方は

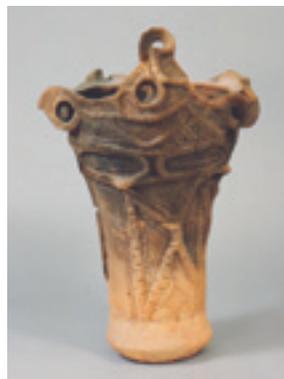
優れた縄文土器が多数出土している地域として知られています。その中から、縄文時代中期の土器158点が、長野県教育委員会によって県宝に指定されました。茅野市からは47点が県宝に指定されました。



様々な種類・様々な場所

今回、県宝に指定された縄文土器の、ほぼ三分の一を茅野市の出土品が占めていることから、茅野市の縄文遺跡と縄文土器がいかに優れたものがわかります。土器の種類は、顔面付土器、土偶付土器、蛇体把手付土器、絵画文土器、動物裝飾付土器、異形土器などに分類されています。

指定された土器を出土した遺跡ごとにみると、国特別史跡の尖石



蛇体把手付土器



顔面付土器



動物裝飾付土器



土偶付土器

遺跡のものが最も多く、11点あります。次に多いのが長峯遺跡(北山)の8点、国宝土偶「縄文のピナス」の出土した柵畑遺跡(米沢)からも7点が選ばれています。他にも梨ノ木遺跡(豊平)6点、国宝土偶「仮面の女神」が出土した中ツ原遺跡(湖東)からは4点、下ノ原遺跡(玉川)から4点、聖石遺跡(北山)と一ノ瀬遺跡(米沢)から2点、茅野和田遺跡(玉川)・勝山遺跡(宮川)・徳久利遺跡(富士見町)が各1点となっています。

茅野市天然記念物指定 「それいざくら下菅沢の祖霊桜」

下菅沢それいざくらの祖霊桜は、木川姓が半数を占める地域の守り神として、墓地の中央に立っています。武田信玄の軍用道路が近くを通り、戦いの途中で息絶えた武将が葬られ、後にふるさと甲斐のシダレザクラが植えられたとの伝承が地元には残されています。このシダレザクラは幹周が5mを超える市内最大のサクラであり、長野県内でも有数の幹周を誇るサクラの巨木です。樹形も優れ、周囲の農地や背景の八ヶ岳ともあいまって優れた景観を成しています。

諏訪地域を代表する美木であり、茅野市天然記念物に指定されました。

指定日 平成30年10月24日

名称 下菅沢それいざくらの祖霊桜

樹種 シダレザクラ

形状 ①胸高幹周522cm
②樹高：約15m
③枝開張 約19m

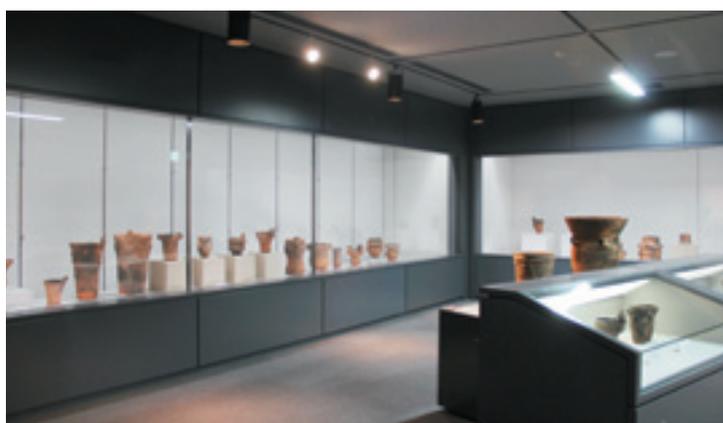
樹齢 推定400年以上



現在展示されている長野県宝に指定された土器の一部

茅野市の特徴ある土器

尖石縄文考古館に收藏されている縄文土器の中には、今回指定されたものに引けを取らないものが多数收藏・展示されています。今後「信州の特色ある縄文土器」として、追加指定されることが期待されます。そんな特徴ある土器を見に行ってみませんか。



尖石縄文考古館 特別展「長野県宝指定縄文土器展」の様子
(期間 10月6日(土)～12月28日(金))